

漱石の所在、動静

漱石幼少時代の所在

慶応3年1月5日 江戸の牛込馬場下横町（現：新宿喜久井町1番地）誕生地から、里子、養子に出される

四谷大宗寺門前より区内浅草三間町へ転居

浅草転居先の2説

石川悌二説（夏目漱石—その実像と虚像）

現：雷門1、2丁目、台東区寿町4丁目に該当する三間町の借家

三間町は、田原町から東方駒形町へ行く陸羽街道の途中南側の細長い町、（現：台東区寿町4丁目）

鷹見安二郎説（漱石の養父—塩原昌之助）

寿町十、56坪、塩原金之助（現：浅草寿町2丁目12番）から隣地11番を塩原昌之助の添年寄りの居住地とした。（転居願書）

その後塩原昌之助は浅草から内藤新宿にもどり、伊豆橋の管理人となる

内藤新宿北町十六番地（養父母との居住地）江戸時代：四谷太宗寺門前

現：新宿2丁目9番地

浅草諏訪町四番地（現：台東区駒形1丁目内）

浅草寿町十番地（現：台東区浅草寿町2丁目2番）

養父母と居住

養父塩原昌之助居住の変遷

内藤新宿→浅草三軒町（明治2年4月）

浅草三軒町→内藤新宿（明治4年6月）

内藤新宿 伊豆橋、（現：新宿2-1-8～10）

大きな四角な家（伊豆橋）

赤い門の家

内藤新宿→浅草諏訪町（明治6年3月）

細長い屋敷（諏訪町の家）

浅草諏訪町四番地（現：駒形2丁目）

浅草諏訪町→実家（喜久井町）

やすが昌之助の不行跡を仲人夏目小兵直克へ訴える。

やすと金之助は夏目家に引き取られる(明治7年年4月ごろ)

実家→小石川指ヶ谷町あたり

小石川指ヶ谷町 71 番池のやすの実家、榎本現二の家か、その付近あたり、

昌之助は、愛人日根野かつと同棲(浅草寿町)

小石川指ヶ谷→浅草寿町(明治7年12月)

養母やすは昌之助と離婚を決意し、金之助を養父昌之助の元(浅草寿町)へ返した

浅草寿町→下谷西町十五番地(現：台東区東上野2丁目)

寿町十番地(現：台東区寿町 1、2、3 丁目)から戸田小学校 浅草寿町七番地(現：蔵前4-19-12)へ通う

昌之助、日根野かつ、れん母娘と一緒に不忍池の東方、下谷西町へ越す(9年8月)

明治9年5月、戸田小学校卒業

6月、市谷学校へ転校、

明治9年8月、喜久井町の実家に引き取られる

実母ちえとの思い出(8~9歳)

明治12年3月 東京符第一中学校正則科乙に入学

漱石 青少年期の所在

明治14年春 東京符第一中学校を中退し二松学舎に転校

明治15年春 二松学舎を中退

明治16年秋 成立学舎に入学

明治17年9月 東京大学予備門予科に入学

明治19年9月 江東義塾(本所区松坂町2丁目 現：墨田区両国2丁目)の教師となり、塾寄宿舎から予備門に通う

明治21年1月 夏目姓に復帰

9月 第一高等中学校本科に進学

明治23年9月 帝国大学文科大学英文学科に入学

明治25年7月 子規と京都を訪れる(岡山、松山を訪ねる)

明治27年 小石川法蔵院に下宿

漱石、教職、大学講師期

明治28年 松山市

明治 29 年 熊本市

明治 33 年 7 月 ロンドン留学

明治 35 年 12 月 帰国(牛込矢来町三番町、中根重一方に、)

明治 36 年 本郷区千駄木町五七番地居住(現：文京区向丘 2 丁目 2 番 7 号)

第一高等学校、東京帝国大学英文科講師

明治 39 年 12 月 本郷区西片町十一ろ一七転居

漱石 職業作家期

明治 40 年 朝日新聞社入社

9 月 牛込区早稲田南町七番地